

普及項目	養殖、流通
漁業種類等	養殖業
対象魚類	マガキ
対象海域	八代海

県南地区におけるマガキ養殖指導及び広域連携の取組み

県南広域本部水産課・上原 大知

【背景・目的・目標（指標）】

八代海では、アサリ資源の減少、ノリ養殖の不振、漁船漁業における水揚量の減少等により漁業者の経営は厳しい状況にある。このような中、県南地区の三角町漁協、鏡町漁協、芦北町漁協、津奈木漁協、水俣市漁協（以下「5漁協」という。）では、マガキの養殖に取り組んでいるが、安定生産が課題となっている。

そこで、当課では、マガキ養殖で漁家収益の向上を図ることを目的として、5漁協や所属する養殖業者に対して、養殖管理指導や勉強会等を通じて、生産の安定化や新たな養殖管理方法の導入に向けた指導・助言を行った。また、新たにマガキ養殖試験に取り組む昭和漁協に対して勉強会等を実施した。

【普及の内容・特徴】

1 成育調査及び養殖管理指導

令和6年（2024年）11月、5漁協の各地先の養殖業者によるマガキ成育調査への現地指導を実施した。また、生残個数及び殻付重量から重量別組成を算出し、過去の結果と比較した資料をまとめ、漁協、養殖業者及び関係市町に情報提供した（図1）。

2 勉強会や意見交換会の実施

令和6年（2024年）9月及び12月に、5漁協の養殖業者と勉強会及び意見交換会を実施し、先進地の取組紹介や上記1の成育調査結果の共有、食害対策等の提案を行った（図3）。また、12月の意見交換会には、天草地区の養殖業者を招き、情報交換を行った。

加えて、新たにマガキの試験養殖に取り組む昭和漁協において勉強会を実施し、試験計画の共有や先進地の取組事例の紹介を行った（図4）。

【成果・活用】

1 成育調査及び養殖管理指導

令和6年度（2024年度）は、昨年までと比較して全体的に生産量が大幅に少なく、サイズが小さい傾向であり後述の勉強会や意見交換会において情報共有するとともに、食害対策等の実施を指導した。調査結果は、各漁協の今漁期の生産見通し等に活用された。

2 勉強会や意見交換会の開催

勉強会や意見交換会を計3回実施し、マガキ養殖における低い生残率の課題を再確認するとともに、課題解決に向けた食害対策や、バスケットを用いた干潟養殖試験等の新たな養殖技術の導入について協議を行った。また、他地区の養殖業者と交流する

ことで、海域を超えた横の連携ができ、各地先で新たな養殖管理方法を導入する機会に繋がった。

加えて、昭和漁協は令和7年（2025年）2月に養殖試験を開始したため、当課は施設設置や成育調査等の技術指導を行った（図5）。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

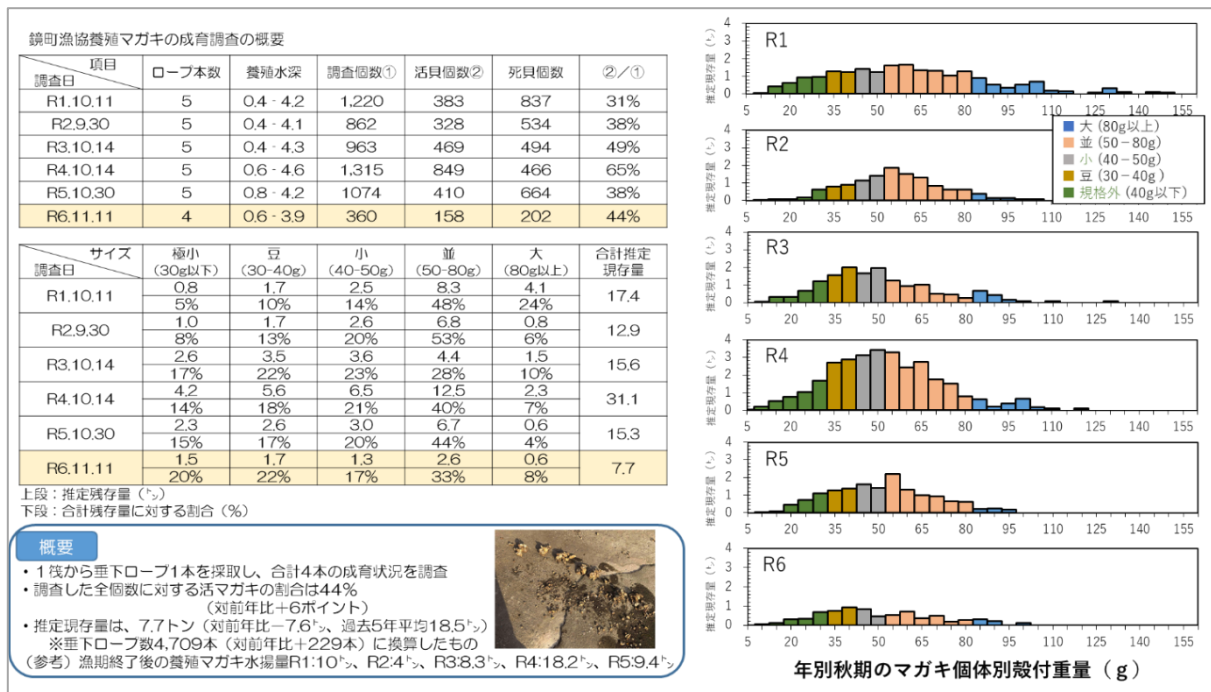


図1 マガキの成育調査の概要（鏡町漁協の例）

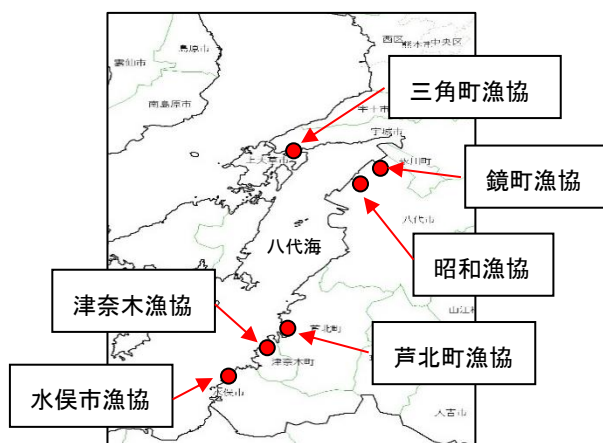


図2 漁協位置図



図3 5漁協との勉強会及び意見交換会の様子



図4 昭和漁協勉強会の様子



図5 昭和漁協の養殖試験の様子